

韓国の保育政策の成果と政策の改善方向

受益者評価を中心に

○ 大邱大学・Kim Sa Hyun

洪 炯駿 (成均館大学)

1. 研究目的

この研究は韓国社会で提起される多様な児童の保育関連の政策イシューを評価して、政策の改善方向を陳述しようと試みられたのである。最近、韓国社会は保育政策の急激な発展を経験しており、また、関連付けられた数多くのイシューが同時に提起されている。このような状況で保育政策の現状を診断して、これから補完すべき政策領域は何かを把握する必要がある。特に、保育政策の直接的な受益者集団が経験から獲得した直観を評価に活用するのは政策の改善に多くの助けになるだろう。したがって本研究は受益者集団の観点から保育政策を評価して、改善が求められる政策を導出しようとする。

2. 研究の視点および方法

研究は評価対象となる保育関連の政策イシューを既存の研究に基づいて整理(上位項目4個、下位項目11個)して、選別された政策問題に対する各受益者集団の重要度評価及び満足度を調査した。調査はソウルにある保育施設の院長と保育教師、そして、父母を対象に実施された。調査された資料を活用して、まず政策課題の重要度を算出するために階層化分析(Analytic Hierarchy Process、AHP)を実施し、次に算出された重要度と満足度を活用して利害関係者の政策評価指標(Stakeholder Satisfaction Index)を算出した。また、重要度-満足度マトリクスを活用した成果分析(Importance-performance analysis、IPA)を実施した。このように算出された評価指標及び重要-満足度マトリクスは受益者集団の属性別に分類して集団間の比較に活用した。

3. 倫理的配慮

本研究を遂行する過程で発生する可能性のある倫理的問題は2つであった。その中の1つは政策に関連するイシューを選定して分類することであり、特定の集団の利害及び意見が排除されることである。このような問題について本研究は関係集団をまんべんなく選抜して、彼らに選定結果についての助言を求めた。残りの1つは、アンケート調査過程で調査対象者の個人情報公開される可能性である。これについて統計法第33条を遵守しようと努力した。

4. 研究結果

分析結果、韓国社会における保育政策と関係のある最も重要な政策 이슈は公共性強化とサービスの質の改善に現れた。詳細に公的保育機能及び保育料支援の拡大、保育者の専門性と処遇改善の問題が最も重要な 이슈であることに確認された。このような様相はすべての受益集団で同じように現れたが、相対的な重要性は多少違っていた。政策に対する満足度の場合にはサービスの質と関連して施設環境とプログラムの多様性で満足度が共通的に高いことが明らかになり、父母の場合は保育料支援の拡大に対する満足度が、保育教師の場合は父母参加および情報体系の活性化がそれぞれ高いことに現れた。それとは異なり、保育施設の院長の場合は、公的保育機能の拡大に対して相対的に高い満足感を示していた。

一方、政策の改善と関連して、政策が維持・強化されなければならない領域に公共性の強化が挙げられ、重点改善の領域にサービスの質の改善、特に保育者の専門性および処遇改善に現れた。したがって、今後、韓国の保育政策は公共性の強化と保育教師の待遇改善により重点的に投資する必要がある。

5. 考察

韓国社会はこれまで民間保育施設の中心の保育体系を発展させてきた。さらに、施設の保育料支援という形で導入された最近の無償保育政策は多くの保育関連の 이슈を量産している。このような状況で、本研究が持つ一次的な含意は韓国の保育政策の現状を受益者の観点から評価してみるきっかけになるということである。また、政府が今後どのような領域にもっと注意を傾けなければならないかどうかを判断することにも役に立つことができると思っている。特に、複数の受益者の観点から確認された研究の結果は今後の保育政策の改善の過程で起こる可能性のある葛藤や不確実性、そして埋没費用を最大限に減らすのに良い情報として活用することができるのである。